

江古田小校長室便り 「温故創新」

H29 (2017)・0807 NO19

校長 伊波喜一

人類を 滅ぼす核の 恐ろしさ 伝えゆくこと 日本の責務

世界で初めて人類に原子爆弾が投下されたのが、この8月です。6日に広島、9日には長崎に投下され、夥しい数の人命を奪い、被害を与えました。後遺症に苦しむ人は、投下後72年経った今も苦悩の中にあります。 筆者が原爆展を見たのは5年生の時です。人の皮がズルリとむけた様子や破壊力の凄まじさに、愕然としました。（どうして、こんな残酷なことをしたんだろう？同じ人間どうしなのに！）。 その後も、核兵器の開発は止むところを知りません。戦争は環境を破壊し尽くす以上に、人の心を荒廃させ、ずたずたにします。「破壊は一瞬、建設は死闘」とあるように、一度壊してしまったもの・こと・ところは、絶対に元には戻りません。 巷では日本の国際貢献のあり方が話題になっています。そんな中で「72年間一度も戦争をしていない国」という実績は、事実そのものが国際貢献を物語っているのではないのでしょうか。平和の維持は並大抵の努力で出来ることではありません。戦争を起こさない・しない知恵は、日本が世界に誇れる精神遺産ではないか、そう考えています。